

令和4年8月13日（土曜日）

日本音楽

優良賞

盛岡二箏曲部

粒ぞろいの音色紡ぐ

日本音楽部門（江戸川区）で、4年ぶり4回目の優良賞を受けた盛岡二箏曲部（中津山美海部長、部員16人）。箏2パートと十七絃の三重奏曲「三つのエスキス」を大舞台で堂々と披露した。

静寂や哀愁、歯切れの良さを表現する3章構成で、美しい音色で紡ぐダイナミズムが表れた楽曲。転調やリズムの変化などが特徴で、大会直前まで特訓を続けた。

3年の中津山部長は「一つ一つの音を丁寧に弾くことを心がけ、本番はうまくできた」と実感。3年生が最後の舞台となる10月の同部定期演奏会に向け「受賞にふさわしい演奏ができるよう練習に励む」と意気込む。

1984年の創部以来、盛岡市の黒沢和雄さん（81）、千賀子さん（78）夫妻が指導。全国高校総合文化祭の出場常連校として文部科学大臣賞6回、文化庁長官賞9回を誇る。

和雄さんは「日本の伝統文化をつなぎ、礼儀作法や思いやりの心を育てたい」と生徒を見守る。



優良賞に選ばれ、さらなる研さんを誓う盛岡二の箏曲部員たち

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。